



第 135 号

一平成30年12月20日発行一

公益財団法人 古代学協会だより

平安博物館回顧展

—古代学協会と角田文衛の仕事—



七月十日から九月九日までの間、京都文化博物館において、京都府・京都文化博物館（以下、文化博物館と略称）・当協会の三者主催により、「京都文化博物館開館三十周年記念」を冠し、

開催された。当協会が昭和四十年四月に日本銀行京都支店の旧店舗（明治三十九年竣工。昭和四十四年重要文化財指定。現、文化博物館別館）を取得して平安博物館を設立し、翌四十三年五月十一日に開館式典を挙行してから五十年、当協会創設者の角田博士が平成二十年五月十四日に逝去してから三十年、世界の博物館の現状と未来を考える ICOM（国際博物館会議）の大会が京都で開催されることへの展望を持つことが、本展開催の意図として込められた。

本展の展示は、当協会の結成から平安博物館の開館に至るまでの歩み、展示内容の復原、角田博士の仕事、当協会の近年の活動の紹介

（写真は開会式 右から浅野伊都子氏、角田文衛博士三女 山田啓二氏、京都文化博物館長、大坪孝雄・古代学協会理事長、田中圭一氏・京都府文化スポーツ部副部長）

「古代学協会と角田文衛の仕事」とする本展が副題とする。本展が開催された。当協会が昭和四十年四月に日本銀行京都支店の旧店舗（明治三十九年竣工。昭和四十四年重要文化財指定。現、文化博物館別館）を取得してから五十年、当協会創設者の角田博士が平成二十年五月十四日に逝去してから三十年、世界の博物館の現状と未来を考える ICOM（国際博物館会議）の大会が京都で開催されることへの展望を持つことが、本展開催の意図として込められた。

（写真は開会式 右から浅野伊都子氏、角田文衛博士三女 山田啓二氏、京都文化博物館長、大坪孝雄・古代学協会理事長、田中圭一氏・京都府文化スポーツ部副部長）

（研究員 古藤真平）

の四部構成を取り、当協会と文化博物館に分蔵されている研究資料（遺物・書跡・模型）・事務書類（写真を含む）、角田博士由来の資料が三階総合展示室に所狭しとばかりに展示された。始原時代から平安時代までの歴史と紫式部について展示する五部屋と、中央ホールの清涼殿（一部）実物大復原模型からなった展示の内、清涼殿模型（現らないため、調度品（荒海障子）、図面の展示に止め、スクリーン画像・パネル写真を活用した。全展示品を掲載できていらないが、展示図録を刊行したので、是非とも御覧頂きたい。

八月十二日には臘谷寿・山田邦和両先生の講演と、ICOM京都大会準備室主任の渡邊淳子氏が加わってのパネルディスカッションが行われ、その他、ギヤラリートーク五回、別館特別見学ツアーツ二回が催された。



基調講演1
「古代学協会から平安博物館へ」
臘谷 寿（同志社女子大学名誉教授）

私と古
代学協会
および平
安博物館
の関わり
について
話してほ
しいとい
うことで
うことで
すでに紹介
がありました
す。すばる
京都文化博
物館が開館
して三十周年、
角田文衛先
生が亡くなっ
て十年目と

年の開設後は平安博物館助手、講師、助教授として、文献学の分野から平安博物館の研究活動を推進されました。その後、同志社女子大学に勤務され、現在は名誉教授の称号を授与されています。さまざまな研究で我々後進を指導して下さっており、主要な著書としては、「清和源氏」「平安貴族と邸第」「藤原道長」「藤原彰子」などがあり、まさしく平安貴族研究、平安時代研究の第一人者です。

先生には、特に草創期の平安博物館や角田文衛博士についてのお話を聞いて頂きたいとお願いいたしました。

「古代学協会から平安博物館へ」
臘谷 寿（同志社女子大学名誉教授）

年の開設後は平安博物館助手、講師、助教授として、文献学の分野から平安博物館の研究活動を推進されました。その後、同志社女子大学に勤務され、現在は名譽教授の称号を授与されています。さまたま研究で我々後進を指導して下さっており、主要な著書としては、「清和源氏」「平安貴族と邸第」「藤原道長」「藤原彰子」などがあり、まさしく平安貴族研究、平安時代研究の第一人者です。

先生には、特に草創期の平安博物館や角田文衛博士についてのお話を聞いて頂きたいとお願いいたしました。

基調講演1
「古代学協会から平安博物館へ」
臘谷 寿（同志社女子大学名誉教授）

今年は、平安博物館開館五十周年、京都文化博物館が開館して三十周年、角田文衛先生が亡くなつて十年目と

いう年に当たります。さらに言えば、藤原道長が三人の娘（彰子、妍子、威子）で太皇太后、皇太后、皇后の三后を独占し、その喜びを「この世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」と詠んだ年、つまり寛仁二年（一〇一八）十一月十六日からちょうど千年となりました。ちなみにカレンダーを見ましたら、陰曆の十月十六日は、陽曆では十一月二十三日で勤労感謝の日。なんと満月とあります。道長がこれを歌つたのは土御門第においてです。その場所は、梨木神社の西、京都御苑内東方の迎賓館の南邊になります。

先生には、特に草創期の平安博物館や角田文衛博士についてのお話を聞いて頂きたいとお願いいたしました。



平安京朝堂院地区
(下水道工事立会)

本題に入りますが、私は昭和三十七年三月に同志社大学を卒業して大学院を考えることになりました。恩師の故中寛司先生の強い推挙で古代学協会に就職し、角田先生のもとで指導を得ることになりました。

先生からは折々に「これを読みなさい」と言って本を貸与されました。それも「History of Japan」（英語版）、西洋封建制度史、ローマ帝国の形成など、外国史関係の本が主でした。そして先生は、「世界史を知らずして、どうして日本史がわかりますか」と仰る。私は苦痛でしようがない。そしたらあるとき、角田先生の大坂市大の教え子で、当時、大

阪市立美術館に勤務されていた故藤原光輝さんが、「鮎沢（旧姓）君な、そんなもの、まともに読んでいたら死んじゃう。それは積ん読、先生は何も言わないから」と。それを実行追体験してみてはいかがですか。

本題に入りますが、私は昭和三十七年三月に同志社大学を卒業して大学院を考えることになりました。恩師の故中寛司先生の強い推挙で古代学協会に就職し、角田先生のもとで指導を得ることになりました。

先生からは折々に「これを読みなさい」と言って本を貸与されました。それも「History of Japan」（英語版）、西洋封建制度史、ローマ帝国の形成など、外国史関係の本が主でした。そして先生は、「世界史を知らずして、どうして日本史がわかりますか」と仰る。私は苦痛でしようがない。そしたらあるとき、角田先生の大坂市大の教え子で、当時、大

藤原さんの逝去（三十五歳）の報に接したのは、大分県の丹生遺跡（旧石器）の調査中の事でした。悲しくて遺跡の片隅で思い切り泣きました。

勤めて最初に与えられた仕事は季刊誌『古代学』の編集でした。当時これと月刊誌『古代文化』という雑誌を出していました。『古代学』の編集でよい勉強になったのは、編集委員会で異分野の先生方の話が聴けたことです。日本古代史の井上光貞、古代ギリシャ史の村川堅太郎、漢字学の白川静、日本考古学の斎藤忠、羅城門跡などの発掘調査も行っていました。喫茶店の改修工事に行つてました。喫茶店の改修工事に付き合つて徹夜で発掘をしたことありました。年間十回以上の発掘調査に行きました。考古学の「コ」の字も知らなかつたので、藤原さんはスバルターしました。藤原さんはスバルターしました。藤原さんはスバルタ

うど高度成長期で、工事があちこちでしまつちゅう工事の立ち見調査を行つてました。喫茶店の改修工事に付き合つて徹夜で発掘をしたことありました。年間十回以上の発掘調査に行きました。考古学の「コ」の字も知らなかつたので、藤原さんはスバルターしました。藤原さんはスバルタ

車



世界の博物館史と平安博物館

— ICOM (国際博物館会議) 京都2019を見据えて —

平安博物館を世

界の博物館史に位置づけること

シンドウムの準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

もっと深く詳しく知りたいと思い企

画しました。今回の展覧会に際して、

京都文化博物館の前身の一つである

平安博物館のことを、私たちはあら

たため勉強いたしました。しかし記

録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

去を振り返るのではなく、これから

のことに結びつけていかなければな

らないのではないか」とご意見を

いただきました。まったくそのとお

りです。そこで私たちは回答として、

記録に残されていないこともあります。

平安博物館のことを

示できません。ですが、もしかした

ら裏話のようなものに、平安博物館

の面白さや魅力、あるいは重要なこ

とが隠れているかもしれません。そ

こで、平安博物館の元館員である両

先生にお話をしていたところと思つた次第です。

準備にあたつて、両先生と相談した

際に、「いつたい二〇一八年」という

タイミングで平安博物館の展覧会を

やる意味はなんだろう?」「単に過

さんは私の二年後ぐらいに古代学協会に就職され、平安博物館を経て、京都文化博物館で定年までおられた、いうなれば古代学協会以来、最も長く関わった人と言えます。

古代学協会が日本銀行の京都支店を入手する契機は、昭和四十年の三条東殿跡の発掘調査にあります。三条の烏丸通りを挟んで東北は三条東殿、西北は三条西殿の跡地に相当します。後白河法皇の御所として知られる三条東殿の跡地には現在、NTT（旧電電公社）があります。平治の乱のときに源義朝と藤原信頼の軍勢が襲撃して火をかけるということがありました。『平治物語絵巻』の「三条殿夜討ち」巻に描かれている場面で有名です。この場所に同社がビルを建てることになり、そこの発掘調査をしました。その現場に角田先生が来られ、昼食を近くで摂るために歩いている時に日銀の建物が目に入ったのです。そこで、何気なしに、「先生いいビルがありますね。こんな所を買って博物館にしたいんですけど」と冗談交じりに申したら、先生が「それもそうだね」と、仰つた。話はそれで済んだのですが、瓢箪から駒がでてしまふのです。

資料の昭和四十一年五月～六月を

読です。これは開館前から始まり、古代学協会で終わっても、陽明文庫において、さらには東京でも続けられ、最終的には二十年かかり、その成果が思文閣出版から十六冊の『御堂関白記全註釈』として刊行されました。その刊行に山中先生を助成された大津透・池田尚隆さんが編者となつて昨年に『藤原道長事典』が同出版社から刊行されました。その出版パーキーが東京であり、私も出席して挨拶しました。『御堂関白記』を理解するうえでのまたとない良書だと思います。

そのほかに史料拾遺、つまり史料集の刊行をしています。『宇佐託宣集』、『吏部王記』をはじめとして、私が担当した『魚魯愚鈔』。これは十四世紀半ばにできた除目にに関する有職故実書。全部で五冊になります。尊経閣文庫本・内閣文庫本を本とし、陽明文庫本・古代学協会本を校合本として用いました。古代学協会本は三条西実隆本ですが、これは角田先生が東京の古書店で求めたものです。史料集の刊行に際しては尊経閣文庫、宮内庁書陵部、内閣文庫、東大史料編纂所をはじめいくつかの機関に足を運びましたが、多くの先生方から教示を賜り、よい勉強になりました。そしてまだ活字化されていない貴族の日記などの多くを、申請書を出してプリントし、備えました。

そのほかに史料拾遺、つまり史料集の刊行をしています。『宇佐託宣集』、『吏部王記』をはじめとして、私が担当した『魚魯愚鈔』。これは十四世紀半ばにできた除目にに関する有職故実書。全部で五冊になります。尊経閣文庫本・内閣文庫本を本とし、陽明文庫本・古代学協会本を校合本として用いました。古代学協会本は三条西実隆本ですが、これは角田先生が東京の古書店で求めたものです。史料集の刊行に際しては尊経閣文庫、宮内庁書陵部、内閣文庫、東大史料編纂所をはじめいくつかの機関に足を運びましたが、多くの先生方から教示を賜り、よい勉強になりました。そしてまだ活字化されていない貴族の日記などの多くを、申請書を出してプリントし、備えま

した。

角田先生は東京の古本屋に行かれでは山のように本を買ってこられる。私が神田の古書店へお伴をした時、あのころ『小右記』とか『御堂関白記』の古書の値が高く、古代学協会の給料は安い。私は『御堂関白記』が欲しかつたけれど躊躇している。もし払えなかつたら返品すればよい」と。「先生、古代学協会の給料では……」「君ね、なにも今すぐ払う必要はないんだよ、ツケで買えばよい。もし払えなかつたら返品すればよい」と。なるほど、こういう買い方で、藏書を増やしていかれたんだと納得。もつとも先生はお金持ちでしたから。

最後に、平安建都千二百年事業についてふれておきます。平成六年、つまり一九九四年のことです。平安遷都が七九四年ですから、まる一二〇〇年を迎えたことになります。その年に『平安時代史事典』が刊行されました。平安時代専門の事典を作ろうという構想は二十年近く前に週り、毎週土曜日に、角田先生をはじめ文献担当の人、アルバイトの人たちが文献課の部屋に集まって、項目・筆者などの選定を進めたのです。

当初は東京堂出版から出すつもりで作業を進めていたのですが、どんどん増えて予定をはるかにオーバーし、とても東京堂出版の一連の事典に見合うものには收まらず、角田先生が角田先生は東京の古本屋に行かれでは山のように本を買ってこられる。私が神田の古書店へお伴をした時、あのころ『小右記』とか『御堂関白記』の古書の値が高く、古代学協会の給料は安い。私は『御堂関白記』が欲しかつたけれど躊躇している。もし払えなかつたら返品すればよい」と。「先生、古代学協会の給料では……」「君ね、なにも今すぐ払う必要はないんだよ、ツケで買えばよい。もし払えなかつたら返品すればよい」と。なるほど、こういう買



(5)

さんもその表れです。この制度は、後にみられる大阪の国立民族学博物館や佐倉の国立歴史民俗博物館の先鞭となつたのです。

平安博物館は文献課、有職課、美術課、考古一～三課に分かれ、人も行より有償譲渡を受ける、これと同時に下鴨にあつた古代学協会の京都事務所を移転し、平安博物館を創建、あります。その次の年の四月、旧日本銀行京都支店の土地建物を日本銀行による資金での購入が決定、とあります。開館する前に、講座（土曜講座）を始めています。開館が昭和四十三年五月十一日、これは図録にもあります通り、三笠宮殿下御夫妻をお招きして大々的に開館式を行つたわけです。

角田先生は、かねがね大学を作りたいという希望をお持ちで、それは山田君の資料の角田先生の年譜を見ていたときますと、昭和三十四年のところに、この頃、勧学院大学設立に奔走、とあります。勧学院というのは九世紀の初め、藤原冬嗣が大学寮に学ぶ藤原一門のために作った寄宿舎で、それに角田先生はヒントを得て、勧学院大学の名を思い立つたのです。結果的には実現しませんでしたが、それを受け継ぐ格好で平安博物館が生まれた、と言えるでしょう。したがつて一般の博物館とは異なる研究博物館にしたい、というのが先生の強い意図でした。学芸員ではなしに教授・助教授制をとつたの



(6)

の邸宅として重要な東三条殿の模型（百分の二）を島津製作所傘下の京都科学標本に依頼して作りました。当時、この類の模型は後白河上皇の御所である法住寺殿ぐらしきなく、陳列替えは行うけれど、特別展は一切しないという方針でした。陽明文庫の名和さんにはすつかりお世話をいただきました。とりわけ『春日權現絵』は二十巻をとつかえひつかえ殿を使って白拍子舞とかいろんな催しものをして結構お金を稼いだんがら一部分しか残つていません。清涼殿を使つて白拍子舞とかいろんな催しものが載っていますが、いまは残念ながら一部分しか残つていません。清涼殿を使つて白拍子舞とかいろんな催しものをして結構お金を稼いだんがら一部分しか残つていません。また、攝関家依頼も多かつたです。また、攝関家はなしに教授・助教授制をとつたの

もその表れです。この制度は、後にみられる大阪の国立民族学博物館や佐倉の国立歴史民俗博物館の先鞭となつたのです。

平安博物館は文献課、有職課、美術課、考古一～三課に分かれ、人も行より有償譲渡を受ける、これと同時に下鴨にあつた古代学協会の京都事務所を移転し、平安博物館を創建、あります。開館する前に、講座（土曜講座）を始めています。開館が昭和四十三年五月十一日、これは図録にもあります通り、三笠宮殿下御夫妻をお招きして大々的に開館式を行つたわけです。

角田先生は、かねがね大学を作りたいという希望をお持ちで、それは山田君の資料の角田先生の年譜を見ていたときますと、昭和三十四年のところに、この頃、勧学院大学設立に奔走、とあります。勧学院というのは九世紀の初め、藤原冬嗣が大学寮に学ぶ藤原一門のために作った寄宿舎で、それに角田先生はヒントを得て、勧学院大学の名を思い立つたのです。結果的には実現しませんでしたが、それを受け継ぐ格好で平安博物館が生まれた、と言えるでしょう。したがつて一般の博物館とは異なる研究博物館にしたい、というのが先生の強い意図でした。学芸員ではなしに教授・助教授制をとつたの

山田君は先生のもとで親しく研鑽を積むことになったかと思います。ちょうど時間となりました。ご静聴ありがとうございました。

私は今回の回顧展の準備で、この
一、二ヶ月、最近刊行されました
『角田文衛の古代学』⁴ 角田文衛自
叙伝を隅から隅まで読んだのです
が、そこに描かれてない角田先生の
素顔についてもお話しいただきまし
た。

か」と感激していただいて、こちらの方が恐縮してしまったということあります。

その後、私は高校に入学しました。私の高校は同志社香里高校といいますが、そこで世界史を教えてもらつたのが清水睦夫という先生でした。この方は当時の日本では珍しい古代・中世のロシア・東欧史の専門家で、角田先生の最初期の愛弟子だったのです。高校生だった私は、清水先生から歴史を学ぶ際の基本的な姿勢を叩き込まれました。そして同志社大学の文学部文化学科文化史学専攻に入学して本格的に歴史を勉強することになったのですが、そこで受けた最初の授業の担当が臘谷先生でした。臘谷先生は当時は平安博物館での助教授でしたが、同志社大学でも非常勤の講師として教えておられたのです。臘谷先生とはそれからの因縁だということになります。こうした先生方を通じて、平安博物館というすごい研究機関があるんだということを知り、憧れを感じるようになったのです。

大学の一回生の時には、角田先生の主著である『古代学序説』を読みました。この本の内容は難しくて、當時の私にとっては理解できたとはとてもいえないのですが、深淵で広大な学問の世界が拓がっていること

はわかりました。そこで一念発起して、平安博物館の角田先生の授業を直接受講することにしたのです。平安博物館の二階の講座室で「古代学講座」が行われており、角田先生御自身が土曜日の午前中に「ヨーロッパ古代史概論」を講じておられました。これは別に入学試験があるわけではなく、誰でも申しこめるんですね。しかし、いざ行ってみると、一般的な参加者は私だけ、そのほかの受講生ではありません。平安博物館の研究員の先生方なんですね。もちろんその中には龜谷先生の方々におられました。ここで角田先生がヨーロッパの古代史を説明されるわけですが、しばしば博物館の研究員の方々に質問を投げかけられます。またこれが実に意地悪でして、日本考古学の研究者にはヨーロッパ古代の文献史料について、日本の文献史学の先生方にはヨーロッパの遺跡や遺物について質問される。「知りません」と答えたりすると、角田先生は「あなたはこんなことも知らないんですね。それがあまりにも勉強不足ですよ」とと言われる。まあ、イケズこの上ないのですね(笑)。

こうして私は、だんだん平安博物館と関わらせてもらうようになつたのです。大学院に入つて間もなくの時のことですが、私はいつものように平安博物館の図書室で勉強させてもらっていました。そうすると、当

時平安博物館の助手だった南博史さん（現・京都外国语大学教授）が「山田君、ちょっと来なさい」と言われるのです。何かな、と思って行くと、博物館の専任の講師だった川西宏幸さん（現・筑波大学名誉教授）に引き合わされて、「知つているように、今、平安博物館ではエジプトの遺跡の発掘調査をやっている君も行ってみる気はないか」と言つていただきました。私は非常に感激しました。今では海外の遺跡の発掘調査は日本のあちこちの研究機関がやつておりますが、当時はそうしたこととはまったく珍しく、ましてや学生の分際で海外の発掘調査に参加できるなんて夢のまた夢といった時代だったのです。私は平安博物館の非常勤の研究员（研究嘱託）という命令をちょうどだし、喜び勇んでエジプトの砂漠の真ん中の遺跡に行きました。川西さんの指導を受けながら調査にたずさわりました。これは私にとって、学問の幅を広げさせてもららう得難い機会だったと思います。

物館の運営母体として新たに設立された京都文化財団に移籍したのです。さて、角田文衛先生のお話に移りましょう。角田先生のお生まれは福島県で、福島市の北側でそこから鉄道で三〇分くらい行つたところにある桑折町（こおりちょう）というところです。角田先生はその資産家の家に生まれられました。ですから角田先生は、少年や青年の頃にはお金の面では全然苦労されずにすごされたのです。

私は最近、古代学協会から委嘱を受けて『角田文衛の古代学』全四巻という書物を京都大学の吉川真司先生と一緒に編集しております。その第四巻として昨年に『角田文衛自叙伝』を出させていただきました。それを見ていると、当時の角田先生の家には使用人だけで七十人くらいいたというんですね。また、角田先生はその後に仙台に引っ越されたのですが、その時の家には広大な庭があり、そこがそのまま縄文時代の遺跡で、草むしりをしているとたくさんの縄文式土器や石器が拾えたといいます。ちょっと、われわれとはスケールが違いますね。

そのあと、京都帝国大学に進学して考古学の濱田耕作（青陵）先生のもとで勉強されたわけです。濱田先生からも非常に才能を買われていた

続きまして、山田邦和先生に『平安博物館の特質と意義』と題してご講演いただきます。山田先生は一九五九年京都にお生まれになり、一九八六年に平安博物館の研究嘱託として勤務を始められ、助手を経て一九八六年に平安博物館が実質的に閉館になるのですが、その後京都文化財団に移られて一九八八年開館の京都文化博物館の学芸員をお勤めになりました。その後、花園大学を経て、現在は同志社女子大学教授でいらっしゃいます。

先生のご研究は多彩でして、主要な著書としては、「須恵器生産の研究」「京都都市史の研究」「日本中世の首都と王権都市」や共編著「歴史のなかの天皇陵」などがあります。

先生は考古学から学問を出発され

A black and white portrait of Yamada邦和, a man wearing glasses and a suit, looking directly at the camera.



「平安博物

山田 邦和（同志社女子大）

人学教授

えておられた時で、臍谷先生が「怖かった」とおっしゃるのも当然なのです。私が平安博物館に就職したのはその最末期で、間もなく閉館して京都文化博物館が新設されるという時期でした。ですから私は平安博物館の最期に立ち会つたということになります。その頃にはさすがの角田先生もだいぶ穏やかになつておられたのでしょうかね。

今回は京都文化博物館で「平安博物館回顧展」というすばらしい展覧会をやつていただきました。いろいろ聞いてみると、この展覧会は特にプロフェッショナルの研究者の間では評判がいいようです。たとえば、ある専門研究者のツイッターを見てみると、「平安博物館回顧展を見てきた。博物館史・史学史的に超おもしろかった!」、「とにかく創設者・角田文衛の『怪物』ぶりに圧倒される」、「人を巻き込み自らも走り続ける。角田文衛、まさに強キヤラ」などと書かれておりましたなかなかの慧眼で、見る人はちゃんと見てくださっているんだということを嬉しく思いました。

私と角田先生のかかわりは、もちろん臍谷先生ほど深いわけではありませんが、それでもけつこう御縁があつたように思います。私は京都の中京の生まれ育ちなのです。

が、たしか小学校六年生の時に、家
の近所、御所の東側の寺町通を自転
車で走っていると、そこには廬山寺と
いうお寺があることを見つけた。そ
のお寺の門に「紫式部邸宅跡」とい
う看板が掲げられている。小学生と
いえども「源氏物語」の作者として
の紫式部の名前ぐらいは知つてしま
ったから、その歴史的人物がこんな所
に住んでいたということに感動し
ました。興味を持ったのでそのお
寺に入つてみたら、綺麗な庭の中
に紫式部邸宅跡と刻んだ大きな石
碑が座っている。そして、本堂の
ちよつと高いところに、品のある中
年の学者の写真が飾つてあります
た。その写真の方が、この廬山寺が
紫式部の邸宅跡だということを立証
した角田文衛という先生であり、平
安博物館の館長をつとめておられ
る、と書いてありました。ますます
関心をかき立てられた私は、お寺の
人に平安博物館のことと聞きました
ら、三条高倉にあるということを教
えてもらつた。これも私の家から遠
くはないところでしたから、そのま
ま自転車を走らせて平安博物館に来
ました。今、私たちがいるこの赤煉
瓦の建物です。いわば、それが私と
角田先生との御縁の始まりでした。
ずっと後になつてからこのことを角
田先生に申し上げましたら、「山田
さん、あなたはそんな早い頃から私

これは角田先生が外国語の才能に恵まれていたということはあると思います。かつての平安博物館では研究員に年に一度、外国語の試験を課していました。しかも、その場合の外国语というものは英語じゃない。英語以外のヨーロッパ語だというのです。これは大変だったそうです。私が平安博物館に入った時は博物館の最終段階でしたのでもう外国语試験はなくなつており、幸い、私は難を逃れました。しかし、臘谷先生なんかはそうとうこの「被害」にあわれたのではないかと思ひます。また、私は角田先生から「あなたは外國語はどうですか」と聞かれたことがあります。ドギマギしながら「英

また、角田先生が講義の中で「私はデンマーク語は得意なので辞書引きながらでないと本が読めない」とおっしゃつたことにも驚きましたね。あとで聞いてみると、デンマーク語はドイツ語に似ているらしく、ドイツ語の知識があればわりと読みやすいですが…。しかしそういふ當時の日本の歴史学者で、一方では『御堂関白記』や『源氏物語』を精読しつつ、その一方でデンマークの書物を取り寄せて、たとえ辞書引きであってもそれを読んでいるという方がどれくらいおられたでしょうか。やはり角田先生は、世界史的な視野で「古代」を観ておられる。旧石器をやり、ギリシャ・ローマ古

いう人の書き込みがあつたのですね。その人が「しかし、ギリシャ・ロー
マのことをやつていいる角田文衛とい
う人がいる。また、旧石器時代の研
究でも同じ名前が出てくる。この方々は同
じ人物なんでしょうか?」と不思議に思
われている。面白かつたのは、それに対
して「はい、その二人は同姓同名の別
人です」という回答を書き込んだ人がいたのですね。確かに角田というのによくある名字
ですが、文衛というのは非常に珍し
い名前ですね。こんな名前の同姓同
名がそうそう転がっているとはどう
いえない。まあ、これもまた角
田先生の学問範囲の広さが生んだ誤
解だったということです。

京、さらに中央のホールがあつて、その次が紫式部の部屋と、そういう形で構成されていました。そこで研究に基づく展示をする。龍谷先生がおつしやった東三条殿の復元模型もありました。この模型は、日本の博物館としては非常に早い段階のものでした。博物館で復元模型を使うのは、今ならばどこの博物館でもやつていることで、まったく珍しくありません。しかし私の子供の頃には、京都の人にとっては博物館といえば京都国立博物館を指していました。同館の展示は、ケースの中に国宝とか重要文化財になるような古美術の名品がポン、ポンとおいてあり、

勉強された。しかし、だからといつてただヨーロッパ考古学の専門家になつたというのでなく、日本の古代史もやるわけですね。普通ですとこれも、日本なら日本だけ、ヨーロッパならヨーロッパだけになつてしまふ。さらにヨーロッパといつても広いわけですから、それぞれの研究者はドイツ中世史、イタリア古代史、フランス旧石器時代というような狭い範囲の専門家という形にならざるをえない。これでは世界史どころかヨーロッパ史全体を見ることすらなかなかできないことになつてしまふ。それを、角田先生は常に世界史といふ立場で参考しておられました。

語は苦手です」と言つたら、角田先生はいかにも憐れむような眼をされる（笑）。そして、「あのね山田さん、英語は外国语じやないですよ」と言われるんですね。要するに角田先生からすると、英語、ドイツ語、フランス語くらいは、学問をやつていくためにはできてあたりまえで、聞くまでもない。あなたはそれ以外に、ロシア語はできますか、イタリア語はできますか、ラテン語やギリシャ語はどうですか、そういうことなのです。まったく私はレベルが違うというか格の違いを思い知らされました。穴があつたら入りたい思いというのはこのことです。

典文化をやり、日本の奈良・平安時代をやり、北方ユーラシアの遊牧民の文化をやり、というふうに、世界史全体に目配りをしていたというのは驚くべきことです。もちろん、さすがの角田先生にも抜けているところがあります。たとえば、なぜか、日本の古墳時代にはあまり関心を持つておられなかつたというようなことはあります。

しかしそれでも、やはり常人から見るとどうい理解しがたいような広い関心をお持ちだったのです。以前、インターネットの掲示板を眺めていると、そこに「角田文衛さんの奈武郎に関する本を読んでいる」と

こういう広い視野を持つっていた角田先生が、自分の思いの全てを込めたといえるのが平安博物館ですね。

「この建物を博物館なんかにできたらしいですね」と角田先生を焚きつけたのは臚谷先生だったようですね。しかし普通でしたらそんな無鉄砲なことは話だけに終わって、実行に移すなんてことはしない。しかしながら先生はそれをやってしまった。昭和四十二年にこの建物を購入して、翌年には早くも博物館を開館してしまったのです。

平安博物館の展示室は、第一室が

ようで、角田先生は将来的には角田先生を自分の後継者にしようとも考えられていたといいます。

そして、京都帝国大学を卒業してからイタリアに留学されました。昭和初期のことですから、ヨーロッパに留学するというのはものすごいことでした。ここで、イタリアだけではなくヨーロッパのあちこちに見聞を広めながら自分なりの「古代学」いう学問体系を形成されていったのです。しかし、そのあと戦争に巻き込まれてしまいます。角田先生も兵隊にとられ、満州で終戦を迎えたものの、そのまま帰してはもらえず、ソ連の手によってシベリアに抑留されてしまいます。

角田先生は戦争の中で何度も生命の危機に瀕しますが、なんとかそれをくぐり抜け、やっと日本に帰って来られました。そして、新設された大阪市立大学に招かれて、その助教授から教授になられました。角田先生はこの新天地で自分の理想的な学問を追究しようとされました。

角田先生の学問の特徴は、その幅が信じられないほどに広いのが特徴です。先生は「古代学」という言い方を高唱されます。すなわち歴史を研究するのには色々な方法がある。まず、文字による史料で研究するやりかたです。文字に書かれた記録、たとえば『古事記』『日本書紀』

ことはなかつた。やはり、考古学で土器や石器を扱うのと、文献史学で漢文の史料を一生懸命読むのはやり方が違うんですね。ましてやその双方をひとりの人間が同時にやることにはなかなかむずかしいことです。ですから、私は文献史学の研究者、私は考古学の専門家で、その枠から外れることはしません、ということにならざるを得なかつた。しかし角田先生は、考古学と文献史学は方法は違つてはいるが目指すところは一緒なんだと主張した。目標はあくまで歴史の研究というところにある。そうだとすると、文献史料を研究するのもひとつやりかたであるし、遺跡・遺物の研究も重要な方法である。しかし、目標は一緒なんだからその二つを合体させて「古代学」という新しい学問体系を作り上げるべきだということを非常に早い段階から考えられていたのですね。

発揮ということだと思うんですが、普通の人でしたら、自分の勤め先があまりおもしろくないところだったとしても、やっぱり給料をもらわないといけないので、ひたすら我慢するか、それともほかのところに転職しようとするかということがせいぜいです。しかし角田先生はそうじやないんです。勤務先が自分の理想に合わないのでならばそこにさつさと見切りをつけ、自分の思い通りになる研究機関を自分で作ろうとしてしまふ。



会場（京都文化博物館別館ホール）の様子

それで俊寛は捕まつて九州の南の沖合にある「鬼界ヶ島」に流され、そこで悲運の死を遂げる。このエピソードは人形浄瑠璃や歌舞伎の題材にも使われていてよく知られています。この舞台となる鬼界ヶ島にはいくつか候補地があり、私は薩摩半島の南の沖合にある硫黄島（鹿児島県三島村）がそれだと思っています。しかし、奄美大島の東側の喜界島（鹿児島県喜界町）が鬼界ヶ島だという説もあり、この喜界島から平安時代末期の人骨が発掘され、これが俊寛僧都の遺骨ではないかと話題になつた。私は違うと思うんですがね（笑）。角田先生はこの説に則つて、警視庁の復顔の専門家に依頼して喜界島の人骨に肉付けし、俊寛僧



俊實僧都復元人形

時代末期の僧侶「平家物語」に出でてくる鹿ヶ谷事件の主役です。要するに、俊寛の鹿ヶ谷討伐の陰謀になつていてはそれとはいえませんが、九州の南の一に流されにまづける。このや歌舞伎の東側の喜界鬼界ヶ島だといふかと話題うんですが、うんですが、鬼界島から平界島から平され、これ思つていまされ、これは薩摩黄島（鹿児島）に依頼し、俊寛僧

都の復元人形を作り上げたのです。組織としての平安博物館を特徴づけるものは、専門的職員に大学と同様の教授・助教授という名前を与えたことでしょう。角田先生が館長兼教授で、臚谷先生は助教授、私は助教授で、一一番下の職階でした。今の京都文化博物館を含め、一般的の博物館では専門的職員は「学芸員」と呼ばれています。これは、博物館法という法律の中にちゃんと定められているのです。京都国立博物館や東京国立博物館は博物館法の枠にはまらない国の施設ですから、その専門的職員は以前は研究官、今は研究員といつています。ところが、平安博物館は日本の博物館としては初めて、研究員に対して教授・助教授といった職階を与えていたんですね。これは角田先生がドイツの博物館を見た時、そこでは博物館の先生はプロフェッサーである。博物館とはそういうきちんとした先生方が研究をする場所であるということが社会的に認知されている。それを真似たんだと聞いています。その後、日本の博物館でも教授・助教授（現在は准教授）制を採るところがでてきた。国立民族学博物館はそれをうまくやつて、正式な法律上の制度として、研究職員に教授・准教授・助教という待遇を与えることに成功しました。少し変わっているのは兵庫県立人と

自然の博物館で、ここを作る時にその責任者が「自分のところでは専門的職員を研究者として扱いたい。だから、学芸員制ではなく教授・助教授制をとりたい」とおっしゃって、平安博物館に相談にこられたそうですね。この博物館ではいろいろと考えた結果、研究員の相当の部分を兵庫県立大学の教員に併任させると、兵庫県立人と自然の手を使つた。そうすると、その方は博物館の研究員であるという顔と大学の教授という顔を両方持つことができるのです。兵庫県立人と自然の博物館というのは兵庫県立大学に付属する研究所であるともいえるのだと思います。もちろん教授だから偉い、学芸員だから偉くないなどといふことはできないのですが、日本ではやはり博物館の職員の地位は社会的に認知度が低い。その点で、研究を重視するという姿勢を示す点、専門的職員に教授・助教授という名前を与えるということは、非常に大きな意味を持つています。ただ、冷たい言い方をするならば、平安博物館の教授・助教授と言つても、それは単に平安博物館を経営していた財団法人古代学協会という民間団体が任意で与えた職階であつて、別に法律で定められた資格ではありません。勝手に名乗つていただけということもできないわけではない。しかし、かといってこれは決して無意味

なことはありませんでした。平安博物館の研究員は大学の先生と同等の専門研究者であることを示すことができた。それは社会的なステータスにも繋がりますし、大学との人事交流も図れる。平安博物館で助教授だった方が大学に転任する場合、そちらでも助教授もしくは一階級昇進して教授という待遇で迎えてもらうことができるのです。それが学芸員だと、なかなかすんなりとはいかなことがあります。もちろん、教授とか助教授とか名乗るのですから、平安博物館の研究員は大学の教員と同等の研究成果を常に挙げることを求められます。ですから角田先生は研究員に対して、口を開けば「論文を書きなさい、本をまとめなさい」と叱咤激励しておられました。

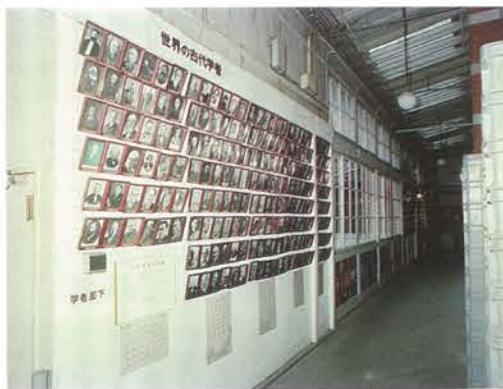
個々の文化財の説明にはほんの僅かしか書いてありませんでした。その頃の私たちは、こういうのが博物館だと思っていたんですね。しかし私は平安博物館に来てみて、その固定観念が破壊されました。博物館とはとにかく宝物をみてもらうだけではなく、復元模型やパネルも使いながら歴史を理解するところでもあるということがわかつたのです。これは京都国立博物館の悪口を言っているではありません。京都国立博物館は日本の美術の名品を見るところであります。しかし博物館とはそれだけではなく、歴史を学ぶことができる



「歴史博物館」といふものもが分は
成り立つのだということです。この
たものが、中央ホールに展示して
あつた平安宮内裏清涼殿の実物大復
元模型です（写真上）。私はこれを小
学生の時に初めて見て、圧倒されま
した。今から思い返しても、よくこ
んなものを造つたなと思います。現
在であるならば博物館で実物大の復
元模型を作るというのは決して珍し
くはありません。江戸東京博物館で
は、明治の銀行や江戸時代の芝居小
屋が博物館の中に復元されておりま
す。大阪歴史博物館には、奈良時代
の難波宮大極殿が実物大で復元され
ています。大阪くらしの今昔館、こ
こは最近では外国人の観光客でにぎ
わつてゐるらしいですが、ここには
江戸時代の大坂の街並みが復元され
ている。こういう形で、現在ではい
ろいろな博物館が実物大復元模型を
使つてゐるのです。しかし、平安博
物館でははるか以前、昭和四十年代
にそうした試みをやつてしまつた。
角田先生はどこからこういう着想を
得られたのか、恐るべき着想力だつ
たと思います。

とにかく平安博物館は、いろんな
面で当時の博物館を突き抜けていた

いたのが歴史学の學問的な調査研究でした。臘谷先生が紹介された文献史料の研究もそうですし、また発掘調査、特に京都の平安京関係の遺跡の発掘調査をたくさんしております。私も、最初は発掘調査に参加させていただくところから、平安博物館にかかわりをもたせていただきました。現在は京都文化博物館の本館が建っているところに木造二階建ての整理室の建物があつて、そこでひたすら土器の整理をしていました。クーラーもなく、夏は非常に暑かつたですね。



いうことがよくありました。そういう点からは、平安博物館の実態は

村野 I C O M が初めて日本にくる
ということと、当館でも協力できれば
と思っております。そのためにも
両先生のお話を承けて、これから私
たち自身がさらに勉強して、I C O
M に貢献できるようなことを探して
いけたらと思います。

それでまず渡邊さんに質問です。
先生方の発表で、平安博物館の特質
は研究博物館あるいは研究所に付属
した博物館・展示施設だとありまし
た。I C O M には、国際委員会とい



左から 山田邦和先生、曠谷寿先生、渡邊淳子氏（ICOM 京都
大会準備室主任）、古藤真平（古代学協会研究員）
司会・進行 村野正景氏・長村祥知氏

パネルディスカッション

うテーマごとの専門委員会があるそうですが、研究博物館の委員会はありますか。

渡邊 ICOM国際委員会のなかに、「研究博物館（研究機関がメインの博物館）」という委員会は存在しないですね。「ミュージアムの研究」という意味では、ICOMのなかには常設委員会（Standing Committee）がありまして、そこで最近のミュージアム動向に関することなどをワーキンググループで検討したりという組織があります。

村野 研究博物館が国際委員会にはないということは、平安博物館は世界のなかでも類例が少ない存在かもしれませんね。それだけでも興味深いことです。そんな博物館の最大の特徴を示すものであり、山田先生がご講演の中で、臘谷先生に聞いてみたいとおっしゃっていたのは、清涼殿の実物大模型です。この着想はどこからえられたのでしょうか。

臘谷 あるとき角田先生が言わされました。「君、光源氏がどこで寝ていたかわかるかね」。桐壺帝が桐壺更衣を呼ぶ。どこで寵愛したと思う?」「天皇なら清涼殿の夜御殿かその北にある藤壺上御局か弘徽殿上御局でしようけれど光源氏は判りません」と答えたら、「たしかにその通りだけれど、文学作品を読むときは常に場というものを意識しなが

ら読まないといけない」と。これが原因かどうか知りませんが、清涼殿の復元は角田先生の意図するところでした。東三条殿（百分の一）の模型もしかり。後宮を含めての内裏の復元も口にされていました。たとえが実現はしませんでした。たとえば「源氏物語」の冒頭の文を読んでいて、弘徽殿とか藤壺とかが天皇の居所、清涼殿と至近のところにあり、桐壺はいちばん遠い所にある。桐壺更衣が天皇のもとへ行くためには地位の高いお妃たちの部屋の廊下を通らねばならず、汚物を置かれたりの嫌がらせをされる、精神的に参ってしまうのです。つまり生活空間を見ないと王朝文学は理解できない。角田先生のこうした発想は、考古学からスタートされたことに由来していると思います。とにかく歴史は現場を見るに徹する。

それと今の博物館会議などでは研究博物館の意識がゼロで、対象は展示博物館です。研究博物館という認識がないですね。どうですか。

渡邊　I C O M では、博物館の定義として「展示」だけでなく「調査研究」を行なうことを明記していますが、国際委員会のカテゴリーとしては「研究博物館」という分類はしていませんですね。

臘谷　研究博物館は維持が大変なのです、要は金食い虫なんです。展示

博物館はお客様が来て、入館料をとつてそれなりにやつていけるけれど。平安博物館の入館者は、時には団体もいましたが、それ以外は閑散としたものです。研究博物館は特殊であつて、民博や歴博は国の予算があるからやつていけるんだと思います。平安博物館は民間ですから財界の寄付が頼りです。今の文化博物館は府の予算で運営してますが、外郭団体だから何かと大変のようですし、特展を催しても苦戦をしているようです。



平安博物館回顧展図録』
4判47頁 本体価格800円

物館学は眼中になかったと思います。ただで当初やりたかったと思うんです。それで旧石器時代がなぜ入ってきましたかというと、昭和三十七年に大分県の丹生遺跡（旧石器）の調査を行った。以降、六年間、毎年調査をして遺物が出たりしたので、それなら旧石器時代から弥生時代を入れて平安時代まで、そういう転換があるんだと思います。

山田 麾谷先生のお話では、最初は角田先生は平安時代だけでやるつもりだった。しかしそれがどんどん膨れ上がるのですね。大変面白いのは、平安博物館の英語の名称は「Heian Museum of Ancient History」で

の縄文時代に入つて、そして平安京へとつながっていくという構成になりました。いわば、角田先生の頭の中から、先生の興味ある部分だけを取り出して具現化したようなものになる。そのあたりが、博物館としての搖らぎというか、理念と現実の乖離といわれかねないというところはあると思います。

村野 平安時代というテーマを用いて古代史、古代学を提示されようとする意図があつたということによろしいでしょうか。

臘谷 やっぱり平安時代中心ですねさかのほつて飛鳥時代とかは関心が薄かつたと思います。平安時代に対する思い入れは強かったです。在原業平の邸宅がわかると、すぐに石碑



きません。それが、チーム作りから実際の建築まで、清涼殿はすごいスピードでおこなっている。宮大工に有職故実や考古学などの研究者、画家などそれぞれのエキスパートのすごいメンバー構成となつていて。どうるようにチーム・ビルディングを起こなつたのか、知りたいところです。

ところで、それにも関係するのですが、こうした特徴をもつた博物館をつくるということに関して、とくに博物館学という観点で角田先生はたとえば古代学講座の中でどのように教えたり、考えられていたりしたのでしょうか。

龍谷 それはほとんどないです。博物館学は眼中になかったと思います。今思うと角田先生はたぶん平安時代だけが当初やりたかったと思うんです。それで旧石器時代がなぜ入ってきたかというと、昭和三十七年に大分県の丹生遺跡（旧石器）の調査を行つた。以降、六年间、毎年調査を

あつて、直訳すると「平安古代史博物館」になるのです。古代学博物館といい換えてもよいと思います。もととの古代学協会の理念としたら、それがいいのかもしれないのですが、実際の博物館としては、エジプトやメソポタミア、中国の古いところ等、そもそも網羅するような世界の古代史の全部をあつかえるかというと、展示面積や展示資料の面からしてもそれはとうてい不可能だつた。かといって、平安時代だけに特化するか、ということ、そもそもならなかつた。結果、平安博物館の展示は、世界の旧石器時代から始まって、それが日本の縄文時代に入つて、そして平安京へとつながっていくという構成になりました。いわば、角田先生の頭の中から、先生の興味ある部分だけを取り出して具現化したようなものになつた。そのあたりが、博物館としての搖らぎというか、理念と現実の乖離といわれかねないというところは

泉涌寺あたりで亡くなつたと判ると
泉涌寺境内に清少納言の碑を建てる。
これに毒化されて?山田君は自宅が
検非違使序跡と判ると顕彰碑を建て
角田先生とともに除幕式を行つてま
す(写真左)。角田先生は若かりし頃
和服姿に香を焚きしめて街を散策さ
れた、と自ら語つておられました。

長村 石碑作りは、角田先生が個人
として財力があつたというのもある
と思いますが、それでも限度はある
でしょうし、寄付金を集めたり、お
そらく行政にも様々に働きかけてお
られたと思います。寄付金が免税の
対象となることが認められたという
書類を展示していますが、こうした
研究そのものではない活動は、どんな
風にそのやり方を学んで、人脈を
作られたのでしょうか。

にお金が集まりました。だから角田先生が活躍した時代は経済も上り調子でいい時代でした。これが下りだして平安博物館がダメになる。時代にマッチしていたということです。

長村 経済状態が社会全体の中で悪くなつていくなかで、結果的に平安博物館を閉じられたわけですけど、そのあとも古代学研究所を設立され、『平安京摘要』『平安時代史事典』を完成までもつていきましたよね。そのころに在職されていた古藤さんに、たとえば財政難に対し角田先生がどんなスタンスで研究活動を進められていたか、そのあたりの話をお願ひします。

古藤 私は古代学研究所になつてから採用されましたので、展示部門がなく、研究中心に活動させて頂けるというありがたい境遇にいたわけですね。「古代学研究所基金」という数億円の基金があり、それとは別に年単位の贊助会費が最高時に九、五〇〇万円ぐらい民間企業から頂けていましたのです。ところが、その贊助会費が減つていき、基金の取り崩しが始まり、進んでいきました。新年度初めに、当初は俸給を改定する辞令が出ていましたが、途中からそれが出なくなつた。要するに給料が上がらなくなるわけです。どんどん厳しくなつていき、角田先生と事務局の人達が大変な思いをしているのを感じ

土車 績を出すことにつき大きなウエイトがありました。角田先生に会うごとに「今は何を書いてますか」と。皆でこう言つてました。「背中はかけるけど、論文はそんなに書けないよな」と。角田先生は学問に対してもとても寛大でした。学問のためには何をしてもいい、お金を使つても。ですから皆も展示よりもまず業績を考える。その一方で、展示にも何かと注文をつけてましたね。

村野 復元画は、画家のアトリエではなく、ここで描かれていたのですか。

臘谷 たとえば旧石器・縄文・弥生時代の生活想像図など、大きなのは大変な作業でした。

村野 ということは、ここで画家が絵をかきながら、平安博物館の館員が、ここはもう少しこうしたほうがいいとかコメントとかアドバイスしながら、復元画をつくりあげた。どちらに主体性があつたのでしょうか

臘谷 天徳内裏歌合想定図なんかそうです(写真下)。三橋節子さんと佐々木和子さんは歴史のことは知らないから、予備知識を入れて、だいたいこんな風な絵にしてほしい、とお願いしました。

長村 天徳内裏歌合想定図については、平安博物館のリーフレットにも



村野 私が不思議に思うのは、展示の役割を角田先生はご自身のなかでどう位置づけられておられたかということです。研究が主として、展示はどう位置づけられていたのでしょうか。

龍谷 研究が主で展示は従です。要するに展示は時々変えなければならぬものは変える。論文を書いて業

復元画がセットとして、当時の歴史を直観的にわかるような仕組みとなっている。展示は従では信じがたいというか、素晴らしいとしか言いようがないです。平安博物館の展示をつくるにあたって、どのくらい時間を持たせたのでしょうか、あの展示はどう生まれたのでしょうか。

臚谷　もう泊まり込みでした。とにかく、ここへ移つて、開館まで一年を切つてましたから。それこそ突貫工事でした。特に絵を描く人が大変だったと思います。

使われていたので、思い入れがあつた作品なのかなと思いました。かつての清涼殿ほどではないでしょうか、今でも年に数件、学習参考書などで掲載依頼がきます。古藤さんに教えて頂いたのですが、三橋節子さんの作品集に年譜があって、そこに黒板伸夫先生の指導で佐々木和子さんと共に制作したことが書かれています。あの作品はまさにここで作られたのでしょうか。

都です。私が下宿していた下の部屋が空いたので、そこに黒板先生が入られたのです。博物館で陳列の作業が終わってくたくたになつて一緒に帰り、下宿の近くの鮓屋とか洋食屋さんで毎回ご馳走になりました。奥様の永井路子さんがお仕事で京都に来られた時にも、ホテルに泊まらずに下宿に滞在されました。朝食や夕食をご馳走になりました。とても仲の良い穏やかなご夫婦でした。先生は三年前に九十二歳で亡くなられました。永井さんももう九十三歳になつておられます。どうされですか。

山田 そういう話を聞いていると、平安博物館の開館というのはまさしく突貫工事で、はつきりといえれば常軌を逸したような狂躁状態の中で作られたのですね。これはやはり角田先生の熱情がないとできなかつたでしょうね。もちろん、実地で働かれていた龍谷先生は大変だつただろうと思いますけども。

村野 私は、展示作りのためのチーム作りに面白さを感じます。展覧会を急いで作らねばならないとき、自分ひとり、ないし近くの手伝つてくれる人に声をかけるくらいのほうが作業はしやすいような気がします。しかし、本当は質のいいものをつくろうとするとき、それではだめで、よく解つているのですが、なかなかで

ながら過ごしました。この度の平安博物館回顧展の準備過程で、平安博物館を設立し、開館する際の資料を見せて頂きましたところ、研究博物館としてやつていてこうという理念は人目に観察してもわなければならぬということ、ポスターを大量に印刷して各所に掲示してもらいました。結果、そのような宣伝活動を継続できなかつたところに、平安博物館の博物館経営上の問題があつたのかな、と感じた次第でした。

村野 さて、古代学研究所になつてからのことや資金のことなども含め、ここまで平安博物館の具体的且つ詳細なお話をうかがつてきました。これを踏まえつつ、少し抽象度の高い話もうかがつてみたいと思います。

山田 先生のレジュメの最後に、博物館の理念とは何かと、質問形式の記載がございました。ここまで話をして改めて、このようにお書きに

なった意図をお話しいただけますでしょうか。

山田 一般論としていいますと、博物館というのは対象はなんでもいい。

博物館は、この世の中に存在するす

べてを対象にできる。しかし、その一方では、そのすべてを

かを明確にしなければならない。歴史なのか美術なのかはたまた自然

についての博物館なのかということ

を明確にしなければならない。さら

に、歴史を対象とすると言つても実

際にはそれでも広すぎるの、多く

の歴史博物館は地域史を対象として

います。たとえば大阪歴史博物館は

大阪の歴史を、江戸東京博物館は江戸・東京の歴史を扱う博物館です。

京都文化博物館はまさに「京都文

化」を対象とする博物館ですが、

「京都文化」というのも歴史、美術

工芸、映画といった分野を全て含む

広大な範囲です。その全部をひとつ

の博物館で充分に扱えるのかどうか。

いざりにしましても、博物館は明確

な理念または主張をもつていなければ

ならないことは確かです。私立大

学では「建学の理念」という言葉を

しばしば聞かされます。創始者がど

ういう考へでこの学校を創ったのか

ということが重要なことです。その点

からいかがでしようか。

渡邊 世界的に博物館の定義がどう

いう風に変遷してきたのかを調べ

てみますと、ICOMが定義した

ミュージアムの定義も、時代とともに

変わってきてます。最初のうち

は、収蔵品を展示するという限定さ

で平安博物館は、すでに

持っている資料を管理するだけとか、

誰かが資料を寄贈してくれるという

偶然の機会を持つことだけでは

なく、博物館の理念に沿ったコレ

クションを永い時間をかけて作り上

げていくことが必要です。これが博

物館の基本的な原則だと思います。

資料は博物館の「力」です。その点

で、京都文化博物館も今後は資料の

収集にがんばつていただきたいと思

います。また、研究面での体制づく

りを考える必要があるのは当然です。

学芸員は何でも屋さんではない。学

芸員はまずは研究者ではなくら

ない。いい展示も、いい研究者なく

しては不可能なのだということを認

識していただきたい。学芸員が研究

しやすい環境を整えるのも、博物館

の責務だと思っています。

外郭団体などのでしょ? 外郭

はダメですよ。何かと立場が弱いの

いうことについても、最後に先生方

がどう思つています。

山田 京都文化博物館の欠点のひと

は、資料の収集が弱いということ

です。やはり博物館は資料をたく

さん集めるところでなければなら

ない。私が京都文化博物館にいた当時、

博物館も京都府も、今よりさらに財

政的に厳しかつた。美術商に凄い良

い文化財が出ていて、私はこれはぜ

ひウチの博物館に欲しいといつても、

博物館当局からはとうてい無理だと

搬ねつけられるということがしばし

ぱありました。博物館は、すでに

ある意味可視化できる。博物館活動

が景観にも影響をあたえる行為とな

なつていて。お話をうかがつて改

めて学ばせていただきました。

このように学ぶべきことがいくつ

も見えてきましたが、時間がきまし

たので、最後に博物館へのアドバイ

スをいただけまでしようか。

臘谷 この形でいいと思うんですけど、展示を拝見していくお金がない

いんだなー、と思っています。財政

基盤がないといい展示はできないと

思います。文化的なものにお金が出

い国はだめだ、とよく言われて

います。それに学的価値の高い館蔵

品を所持すること、そして、それら

を活用し、叡智を出しあつて豊かな

展示が実現できるようになつてほし

い。そのためには財政基盤を確立す

ることが大事だと思います。

山田 京都文化博物館の欠点のひと

は、資料の収集が弱いといつても

あります。それで、展示を拝見して

いるときに、学ぶべきことがいくつ

も見えてきましたが、時間がきまし

たので、最後に博物館へのアドバイ

スをいただけまでしようか。

臘谷 この形でいいと思うんですけど、

展示を拝見していくお金がない

いんだなー、と思っています。財政

基盤がないといい展示はできないと

思います。文化的なものにお金が出

い国はだめだ、とよく言われて

います。それに学的価値の高い館蔵

品を所持すること、そして、それら

を活用し、叡智を出しあつて豊かな

展示が実現できるようになつてほし

い。そのためには財政基盤を確立す

ることが大事だと思います。

山田 京都文化博物館の欠点のひと

は、資料の収集が弱いといつても

あります。それで、展示を拝見して

いるときに、学ぶべきことがいくつ

も見えてきましたが、時間がきまし

たので、最後に博物館へのアドバイ

スをいただけまでしようか。

臘谷 この形でいいと思うんですけど、

展示を拝見していくお金がない

いんだなー、と思っています。財政

基盤がないといい展示はできないと

思います。文化的なものにお金が出

い国はだめだ、とよく言われて

います。それに学的価値の高い館蔵

品を所持すること、そして、それら

を活用し、叡智を出しあつて豊かな

展示が実現できるようになつてほし

い。そのためには財政基盤を確立す

ることが大事だと思います。

山田 京都文化博物館の欠点のひと

は、資料の収集が弱いといつても

あります。それで、展示を拝見して

いるときに、学ぶべきことがいくつ

も見えてきましたが、時間がきまし

たので、最後に博物館へのアドバイ

スをいただけまでしようか。

臘谷 この形でいいと思うんですけど、

展示を拝見していくお金がない

いんだなー、と思っています。財政

基盤がないといい展示はできないと

思います。文化的なものにお金が出

い国はだめだ、とよく言われて

います。それに学的価値の高い館蔵

品を所持すること、そして、それら

を活用し、叡智を出しあつて豊かな

展示が実現できるようになつてほし

い。そのためには財政基盤を確立す

ることが大事だと思います。

山田 京都文化博物館の欠点のひと

は、資料の収集が弱いといつても

あります。それで、展示を拝見して

いるときに、学ぶべきことがいくつ

も見えてきましたが、時間がきまし

たので、最後に博物館へのアドバイ

スをいただけまでしようか。

臘谷 この形でいいと思うんですけど、

展示を拝見していくお金がない

いんだなー、と思っています。財政

基盤がないといい展示はできないと

思います。文化的なものにお金が出

い国はだめだ、とよく言われて

います。それに学的価値の高い館蔵

品を所持すること、そして、それら

を活用し、叡智を出しあつて豊かな

展示が実現できるようになつてほし

い。そのためには財政基盤を確立す

ることが大事だと思います。

山田 京都文化博物館の欠点のひと

は、資料の収集が弱いといつても

あります。それで、展示を拝見して

いるときに、学ぶべきことがいくつ

も見えてきましたが、時間がきまし

たので、最後に博物館へのアドバイ

スをいただけまでしようか。

臘谷 この形でいいと思うんですけど、

展示を拝見していくお金がない

いんだなー、と思っています。財政

基盤がないといい展示はできないと

思います。文化的なものにお金が出

い国はだめだ、とよく言われて

います。それに学的価値の高い館蔵

品を所持すること、そして、それら

を活用し、叡智を出しあつて豊かな

展示が実現できるようになつてほし

い。そのためには財政基盤を確立す

ることが大事だと思います。

山田 京都文化博物館の欠点のひと

は、資料の収集が弱いといつても

あります。それで、展示を拝見して

いるときに、学ぶべきことがいくつ

も見えてきましたが、時間がきまし

たので、最後に博物館へのアドバイ

スをいただけまでしようか。

臘谷 この形でいいと思うんですけど、

「希臘雅典リシクラテス記念塔（青陵生寫）」

絵葉書

リュシクラテス記念碑（Μνημείο Λυσικράτου）は、ギリシアを代表する歴史的建造物、パルテノン神殿が建つアクロポリスの丘の東裾に位置する。ディオニュソス祭でリュシクラテスの合唱団が優勝したことを記念し、紀元前三三四／三三五年に建立された。

本絵葉書は、宛名面下端に「希臘雅典リシクラテス記念塔（青陵生寫）」と印字されており、大正四年（一九一五）欧州留学中の濱田耕作博士が、市河三喜博士とともにギリシア本土及びクレタ島を旅行した際に撮影された写真を仕立てたもの。

同一原版の写真は、「希臘時代に於けるコリント式柱の應用として尤も古いもの、一と言ふ可きで、建築史上至極面白いものである」という評とともに、著書『希臘紀行』に採録されている。

濱田耕作博士が出版したと考えら

れる本絵葉書は、発行年やその他の

絵葉書とのセット関係が詳らかでな

いものの、在外研究などで渡航した

研究者が滞在先で撮影した写真を絵

葉書にし、出張報告や御土産として

関係者に配布した出張絵葉書ではな

いかと思われる。

出張絵葉書の嚆矢は、大正一四年（一九二五年）梅原末治博士が朝鮮半島での調査から帰国後に製作した『樂浪遺品』としているが、

本絵葉書はその



第八回 角田文衛古代学奨励賞

受賞者インタビュー



家原圭太氏

京都市生、京都市文化市民推進室
在住京都市文化芸術都市推進室
文化保護課技師
1981年
京都府文化財保護局

一考古学に興味を持つたきっかけ

きっかけというほどの事はありませんが、大学に入学し、考古学の授業を受け、発掘調査に参加させていたいことで興味をもつようになつたと思います。また、遺跡を見に行ったりして当時の人々のことを想像するのが楽しく、知的好奇心をくすぐられました。

考古学を勉強するにあたり、そもそも発掘調査が自分の肌にあうかどうかを判断する必要があると思いました。京都に住んでいるので、近い

ところで夏休みに発掘調査に参加できるところを探していました。ちょうど、古代学協会にいらっしゃった堀内明博先

生が天理大学に教えに来られていました。

特に七世紀以降は考古学と文献学

は切つても切り離せない学問分野だ

と思います。ただ、それぞれが補完

対象にするのか、文献史料を対象に

するのかだけの違いだと思っていま

す。角田先生のように複数の分野に精通されるのが理想だと思いますが、私はとうていそのような力量はありません。ですので考古学だけではなく他の先生方からもたくさん御教示いただきたいと思っています。

もううとすれば

山中敏史先生の『古代地方官衙遺

跡の研究』と岸俊男先生の『日本古

代宮都の研究』です。あれこれ自分なりにいろいろ考えたうえで、もう一度この本を読むと、すでに書かれていたことが何度もあります。

一恩師である山本忠尚先生から

平安京といえは家原といわれます

が、私自身それほど器用ではない

ですが、マイペースで研究を続けて

いきます。確かに、考古学はお金儲け

ができるものではありませんし、現

場でのしんどい作業がつきものです。

やはり、直接的に古の痕跡に触れ

ることができます。文化財の活用とは、文化財の

価値を高めるためのものだという意

識を持つことが大事だと思います。

観光客にたくさん来てもらうことや、

経済効果を強調するよりも、国民共

同の財産である文化財をまもり、後

世に継承することが最優先されるべ

きだと思います。なかなかわかつて

もらえませんが。

一考古学をやろうという学生が

減つていると聞きます。考古学

のおもしろさは、

考古学を専攻する学生さんが増

えて、その感動を味わってほしいと

思います。学生さんが考古学の調査

研究に携わる環境づくりが大事か

もしませんね。

特に影響を受けた本をあげて

も

うか

たしかに、山本先生からのメツ

セージは多少プレッシャーに感じま

すが、私自身それほど器用ではない

ですが、マイペースで研究を続けて

いきます。確かに、考古学はお金儲け

ができるものではありませんし、現

場でのしんどい作業がつきものです。

やはり、直接的に古の痕跡に触れ

ることができます。文化財の活用とは、文化財の

価値を高めるためのものだという意

識を持つことが大事だと思います。

考古学はお金儲け

ができるものではありませんし、現

場でのしんどい作業がつきものです。

やはり、直接的に古の痕跡に触れ

することができます。文化財の活用とは、文化財の

価値を高めるためのものだという意

識を持つことが大事だと思います。

考古学はお金儲け

第八回 角田文衛古代学奨励賞

家原圭太「平安京の邸宅分布と園池」

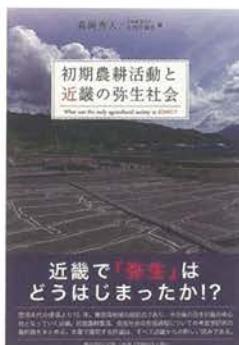
(『古代文化』第八十八巻第三号、平成二十八年十一月)

家原氏はこの論文で、平安京における膨大な発掘調査の成果を受けて、平安京の邸宅の構造、特に園池の配置の特色を、平安京の都市計画との関連に着目し、考察を加えた。今後の平安京研究に大きな貢献をなす、すばらしい研究であり、高く評価されました。

出版案内

森岡秀人先生を代表者とする平成二十五～二十八年度科学研究費基盤研究一般（B）「近畿における初期農耕集落形成をめぐる考古学的研究」の研究成果をふまえて、森岡秀人／公益財団法人古代学協会編【初期農耕活動と近畿の弥生社会】（雄山閣）が刊行されました。

近畿地方ではこれまでほとんどない弥生文化開始期の詳細土器編年・生産関係諸論・農耕集落論・社会構造モデル論など幅広い分野の調査・研究成果が凝集した学術研究書です。近畿地方の縄文人・弥生人がどのよ



ISBN : 978-4-639-02610-5
定価：一二、〇〇〇円+税
発行：雄山閣出版
B5判、三〇一頁

ICOM京都大会 2019

ICOMでは、三年に一度、全ての委員会が一堂に会する世界大会が開催されます。その世界大会

が、二〇一九年に日本で初めて、京都で開催されます。メイン会場（国立京都国際会館・京都市左京区岩倉大鷦町）で行われる基調講演やパネルディスカッション・各国際委員会のセッションやミュージアムフェア（展示会）、京都市内の文化エリアで開催される交流イベント、京都や周辺府県で行なう見学ツアーや、一週間にわたり様々なプログラムが開催されます。

期 間：二〇一九年九月一日～九月七日



（ICOM＝アイコム）について

一九四六年に創設された、ミュージアムの進歩・発展を目的とする、世界で唯一・最大の国際的な規範の確立、ミュージアムの国際的な規範の確立、ミュージアムの国際的な規範の確立、

発行日	公益財團法人 古代学協会
印 刷	明文舎印刷株式会社
電話	075-681-1274